

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区等々力4-19-18
園名	等々力中央保育園

### 1. 活動のテーマ

#### <テーマ>

身体（運動）

「やってみたいをやってみよう！～自分たちで工夫しながら、身体を動かして遊ぼう

#### <テーマの設定理由>

子どもたちの姿や保育のねらいをもとに保育士が可動遊具等を用いた運動あそびのコーナー（アスレチックやサーキットあそびなど）を設定し、繰り返し身体を動かすあそびを楽しんでおり、子どもたちも「このあそびが好き！」「こういうこともやってみたい！」などと、あそびのイメージを膨らませ、意欲的に遊ぶ姿が見られている。あそびの経験をもとに、子どもたちが様々な遊具・道具・素材を用いて、試行錯誤しながら遊べる環境をつくり、更なる探求心を育んでいけるようにしたい。

### 2. 活動スケジュール

7月～・年長組中心に、ホールで子どもが自由に運動遊具を設定して遊ぼう

9月～・年中組は、保育者にリードしてもらいながら運動あそびを設定して遊んでみよう

11月～・年長、年中組混合のメンバーで、互いに刺激しながら遊ぼう

12月～・年中組も、ホールで子どもが自由に運動遊具を設定して遊ぼう

\*年間を通して、子どもが遊ぶ姿や環境設定を通しての気づきを保育者で共有する。

また、配信を通して、遊びや育ちの様子を保護者と共有する。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもが扱うことが可能な可動式の遊具（大型のウレタン素材積み木や軽いマット等）や「これをこう使ってこんなふうになりたい」という運動あそびのイメージを膨らませやすい素材が、子どもの手に届くところにある環境作り

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

・ホールにいろいろな運動あそび遊具を出し、子どもたちが自分のアイディアで組み立て、遊び方やルールを考えたりしながら身体を動かして遊ぶ

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

あまり親しみのない遊具や道具に対しては、「これどうやって遊ぶの？」と保育者に質問する姿もあった。「どう使ってもいいんだよ」「どうやって遊ぼうか？」と保育者が答えると、一瞬戸惑った表情をしながらも、いざ遊び始めたら発想がどんどん湧いてきて、いろいろな遊びが展開していった。

イメージはあっても上手く形にならずに困っている子がいると、「これ使えそうじゃない？」と他の遊具を持ってくる子もいて、作ってはやってみる、崩れてしまうと違うものを使って作ってみる…を、繰り返して楽しんでいる。

自由に自分たちで遊具を出して遊ぶ経験を重ねる中で、ホールに行く前に保育者から「どんなことをしてみたい？」という質問をされると、「アスレチックみたいなものをつくりたい」「公園を作りたい」「ジャンプ台を作りたい」と続々と意見を出すようになっていった。ホワイトボード等へ書き出し、みんなで共有して遊びに反映出来るように工夫した。

ある日、「アスレチックを作りたい！」と言って使いたい遊具をまず出し合い、「マットを重ねたら、いっぱい跳ねて面白い！」「バーを重ねたら、トンネルみたいにくぐれるよ。」など、友だちと作りたい形を考えたり、遊びながら形を変化させたりしながら楽しんでいた。また、別のグループでは、どんなことをしたいかイメージが膨らんでいたが、言葉で思うようにイメージを伝えられない様子があったので、大きな紙をホールに見立ててイメージ図を描いてみることにした。話が進むうちに、「ぞう組公園を作ろう！」とイメージがまとまり、そのアイデアをどうやって形にするか、それぞれの思いを伝えあいながらいろいろな遊具を出して組み立て、上手くいかないと道具を変えてやってみる…を繰り返し、作り上げていた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

運動遊具を購入し、遊ぶ中で、おうちごっこなどに展開する場面が見られ、運動遊びには直結しないように思っていたが、遊具を運んだり積み上げたりする動きも充分運動になっているということに気付いた。また、運動遊具だけでなく段ボールや紙、緩衝材などの廃材も子どもたちの発想から運動遊具になっており、保育士の言葉かけをきっかけに遊び方の工夫で発展させていけることを改めて感じた。